

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の多様性を尊重し、一人ひとりの成長に寄り添う指導を行うことにより、常に変化する社会の中で、様々なかたちで社会とかがわることができる人を育てます。

★多部制単位制の柔軟な教育システム、きめ細かな学習指導と教育相談により「4つの力」を育みます。

1. **学び続ける力**：主体的かつ継続的に学習に取り組み、努力できる。
2. **他者と関わり生きていく力**：自分を大切に思うとともに、他者を理解し、思いやりの心を持って行動できる。
3. **課題を乗り越える力**：さまざまな課題に向き合い、計画を立てて解決できる。
4. **自分の将来を考える力**：自らの可能性と生き方を見つめ、将来を切り拓いていくことができる。

2 中期的目標

1 「学び続ける力」

- (1) わかる喜びやできる楽しさを実感できるよう、生徒一人ひとりの課題を把握した学習支援をすすめる。
- (2) すべての生徒が積極的に授業に出席し、基礎学力の定着や主体的に学びあう授業づくりをすすめる。
- (3) 教員間での相互授業見学、授業研究に向けた研修を通して、教員の授業力向上を図る。

※学校教育自己診断における生徒の学習満足度 78%以上 (R2: 77.4%)

2 「他者と関わり生きていく力」

- (1) すべての生徒が安心して学ぶことができるようスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の外部人材との連携により、きめ細かな教育相談体制を構築する。
- (2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーを習得するとともに、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、必要なコミュニケーション能力を高める。
- (3) 自分の個性を大切にしながら、お互いの個性を尊重する思いやりの心を育む。
- (4) ボランティア活動、地域連携などの取組みにより、自己肯定感・自己有用感を高める。

※学校教育自己診断における生徒・保護者の教育相談満足度 78%以上 (R2: 75.2%)

3 「課題を乗り越える力」

- (1) すべての教育活動において、自ら考える力を育み、ソーシャルスキルトレーニングを活用して、課題を一つひとつ解決する力を高める。
- (2) 生徒一人ひとりの背景を把握し、外部人材も活用しながら自ら課題解決に向かう力を高めるよう支援する。

4 「自分の将来を考える力」

- (1) インターンシップや職場見学を通して実社会を体験する機会を設けるなどキャリア教育を充実させ、将来を見すえた進路指導を行う。
- (2) 生徒一人ひとりが希望する生き方や進路を実現できるよう、入学時から組織的・計画的にキャリアプランニング能力を高める取組みをすすめる。

※学校教育自己診断における生徒の進路学習及び進路情報に対する満足度 70%以上 (R2: 62.3%)

5 信頼される学校

- (1) 家庭や地域との連携強化をすすめ、本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。
- (2) 教職員が、心身共に健康な状態で生徒と向き合うことができるよう、学校における働き方改革の取組みをすすめる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>生徒の結果は、昨年度は全体的に予想より肯定的な回答が上回った。開校2年目となる今年度も21項目中12項目で肯定的な回答が昨年度より上回った。学習・評価に関する項目「学習の評価については納得できる」「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定的回答率は昨年度とほぼ同様であった。授業に関しては「授業はわかりやすく内容に満足である」の肯定的回答が79.4%(+13.2)、「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的回答が82.4%(+13.8)であった。すべての授業で学習支援クラウドサービスを活用し、1人1台端末の有効活用がすすんでいる結果だと考えられる。また昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で進路関係の行事が中止になったりしたが今年度は工夫を凝らし進路について考える時間を増やし、また進路行事も開催することができた。そのため、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定的回答が88%(+20.3)、「学校は進路についての情報を知らせてくれる」の肯定的回答が91.1%(+34.2)となった。</p> <p>保護者の結果では、16項目中8項目で肯定的な回答が昨年度より高くなっている。肯定的な回答が昨年度より低くなった項目は6項目であるが、そのうち5項目は回答数から考えると誤差の範囲であると思われる。「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」の肯定的な回答が今年度は56.3%と昨年度より30ポイント以上下がっているが、「大阪わかば高校に入学させてよかった」の肯定的な回答は90%であり、進路関係や教育活動に関する項目の肯定的な回答が昨年度より10～20ポイント以上高くなっている。</p>	<p>〇1人1台端末について、自ら学ぶためにはどのような活用できるのかが課題。〇コロナ禍でも文化祭・体育祭はできる限り工夫しながら実施したい。〇コロナ禍の影響で中学校で見ていてリーダーが育ってないように思う。今後その影響が高校に出てくるのではないかと。〇学校と地域が連携してよい環境で生徒に学んでほしい。〇勝山高校から大阪わかば高校へ新しい取り組みがすすみ感心した。〇こつこつと実績を積み重ねていく努力が大事。〇広報は生徒目線でのアピールが大事。〇学校だけでなく大学生、近隣の中学校や産業界などいろいろな力を借りてよりよい学校をつくってほしい。〇学校教育自己診断ではアンケートを取る前にアンケート内容を生徒に示すことで生徒たちも期待に応えてくれるのではないかと。〇「多様性は多数決で決めてはいけない」一人ひとりを大切にしていきたいことが大切である。</p> <p>【第2回12月21日】</p> <p>〇学校の周知活動が功を奏している。〇大阪わかば高校の今後の方針は生野区のまちづくりと合致している。〇(海外より)ダイレクトで来た生徒がここで学び仲間ができる進路のモデルを構築してほしい。〇勝山高校が開校するのは大変残念であるが地域連携等大阪わかば高校に引き継がれていくことも期待したい。〇今後の大阪わかば高校の先生方の熱い取り組みに期待したい。〇地域もコロナ禍で様々な行事がなくなっている。地域としても生徒が安全に学べるよう協力したい。〇新たなミッションで大変だろうと思う。新しいことに挑戦するには大変だが、チャンスでもあり頑張りがいがあると思う。課題も多いが、それを乗り越えた時の未来を創造して頑張してほしい。〇協力者はたくさんいる。巻き込んで新しい関係を構築してほしい。〇ICT化も国際化に対応する有用なツールなので活用を進めてほしい。</p> <p>【第3回3月7日】</p> <p>〇今年度も日本語の指導を必要とする生徒も入学しており、来年度からの学校が楽しみである。大阪わかば高校の事は、これからも応援したい。〇学校のICTを活用した学習の取り組みについて、非常に感銘を受けた。今後も学校教育の推進のため、これら取り組みを進めてほしい。〇今年度で委員の任期は終わるが、今後も大阪わかば高校の事を地域の一員として応援、協力していく。〇学校教育自己診断アンケートについて、良い評価が多かったと感じている。難しいミッションも多いと思うが、生徒</p>

府立大阪わかば高等学校

<p>教職員の結果では、10項目中9項目で肯定的な回答が昨年度より高くなっている。「この学校ではカウンセリングマインドを取り入れた生活指導を行っている」の肯定的回答は82.7%、「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう工夫・改善を行っている」の肯定的回答は86.2%で、どちらも昨年度より15ポイント以上上回っている。</p>	<p>のために教職員が一丸となって頑張っている結果ととらえて良いだろう。先輩教員が若手教員の相談にも丁寧に対応しており、また、経験年数の少ない教員のアイデアを取り入れるなど、OJTが機能している。教員も学び続けることが大切。学校の経営計画を、生徒へも周知してほしい。○来年度、本校からも日本語の指導を必要とする生徒が大阪わかば高校へ入学する。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 「学び続ける力」	<p>(1) 安心して学べる学習環境の整備</p> <p>(2) わかる喜びやできる楽しさを実感できる学習支援</p> <p>(3) 教員の授業力向上</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して授業を受けることができるようルール・マナーを大切に授業環境を整える。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器を積極的に活用し、わかりやすい授業づくりを推進する。 学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を推進する。 授業に出席することの大切さのわかる授業づくり、評価の工夫を行う。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年に3回、授業見学週間を設定し、授業見学シートを活用する。 観点別学習状況評価の観点を持った授業研究をすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」70%をめざす。[62.2%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業などで視聴覚機器やICT機器などを活用している」95%以上。[94.1%] 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」70%以上。[66.2%] 「教え方に工夫をしている先生が多い」70%以上。[68.6%] 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」80%以上を維持。[87.9%] 「学習の評価について納得できる」80%以上を維持。[85.7%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学週間の授業見学回数を2回以上、授業見学週間以外も含め授業見学シートを3枚以上作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」67.7%であったが、概ね達成したと考える。年度当初に教員によるロールプレイ等工夫を凝らし継続して授業環境を整えるためのルール・マナーの指導を丁寧に行ってきた。次年度も入学後にすぐに落ち着いて授業に参加できるよう授業環境を整えるための取り組みを継続する。(○) 「授業などで視聴覚機器やICT機器などを活用している」94.1%であった。莫莖の範囲内として達成できたとする。(○) 「授業はわかりやすく、内容に満足できる」79.4%であった。(◎) 「教え方に工夫をしている先生が多い」82.4%であった。(◎) 学習支援クラウドサービスをすべての授業で活用し、グループウェアの利用などそれぞれの教科でわかりやすく興味をもたせる工夫を行ってきた成果であるとする。 「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」85.3%であった。(○) 「学習の評価について納得できる」85.3%であった。(○) 授業見学週間を年3回(6・10・1月)実施した。見学シートの作成は、平均して約3枚できた。10枚作成の教員もあった。シートの交換、および授業月間アンケート結果の振り返りにより観点別学習評価の観点を持った授業研究がすすんだ。(○)

府立大阪わかば高等学校

2 「課題を乗り越える力」	<p>(1) SC、SSW等の外部人材との連携による、きめ細かな教育相談体制</p> <p>(2) 社会生活を営むうえで必要なルールやマナーの習得とSSTの活用</p> <p>(3) お互いの個性の尊重</p> <p>(4) ボランティア活動、地域連携などの取組。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を教職員が共有し、外部人材との協力により教育相談体制を構築する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動において、社会のルールやマナーを学ぶ機会をつくりながら、SSTをすすめる。 ・SSTはその時間だけのものにならないよう、全教員がSSTについて理解を深める。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にすることを育むために、3Rを大切にすることを挙げる。 ・人権学習や外部講師を招いた講演会を企画する。 ・特にネットリテラシーに関してLHR等で学ぶ機会や講演会を企画する。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外美化活動などのボランティア活動の企画を行う。 ・近隣保育園との交流の継続。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度 75%以上。[78.7%] ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度 70%以上。[82.1%] <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」70%以上。[80.8%] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」70%以上。[80.8%] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容、回数、振り返りがどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を教職員で共有、外部人材との連携協力体制もすすんだ。生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度は72.9%であったが、教育相談室体制の見直し等を行ったことの影響もあるため、概ね達成したと考える。(○) ・生徒向け学校教育自己診断の入学満足度は、79.4%であった。(○) 生徒の課題について中学校はじめ関係機関との連携を迅速に行った。ケース会議を適宜行い外部人材の協力・助言をいただき教職員で共有し対応にあたった。次年度もさらに体制を整える。 ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」88.3%であった。(◎) SSTを通してより考える機会をつくることのできた。SSTの振り返りから生徒の成長を確認しながら、全教員が理解を深めるために教員間での共有の時間を今後も確保していく。 ・「人権について学ぶ機会がある」86.8%であった。(◎) 日頃より3Rを大切にしよう、掲示物や配付プリントにも示した。生徒たちも常に意識して学校生活を送ることができたと考えられる。 人権学習やネットリテラシーを学ぶ講演を実施し、生徒たちが考える機会をつくった。 ・校内外の美化活動を実施できた。また地域の多文化共生の交流会にボランティアとして参加できた。(○) ・昨年度に引き続き、本校の農地を利用した芋ほりなど近隣保育園との交流を3回実施できた。(○)。
3 「課題を乗り越える力」	<p>(1) すべての教育活動におけるSSTの活用</p> <p>(2) 外部人材を活用した支援</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において計画的にSSTを実施する。 ・すべての教育活動におけるSSTの活用のため、教職員がSSTへの理解をさらに深めるために、教員研修を実施する。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員間で生徒の状況を共有しながら、SC、SSW、CCと連携して生徒支援を行う。 ・外部機関との連携も積極的に行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間において計画的にSSTが実施できたか。 ・SSTについての教員研修の振り返りがどうであったか。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議や、外部人材との連携により支援が適切に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育産業による教材等の提供について本校生徒になじみやすいものになるよう担当と教員で検討を行い、年間計画通りSSTを実施できた。(○) ・SSTについて担当教員で打ち合わせや勉強会など教員研修を継続的に行い、教員のSSTへの理解が深まったと思われる。SSTの成果はすぐに見えるものではないが継続性が大切であるため、今後も教員間で意見交換を十分にしながら取り組んでいく。(○) ・SC、SSW、CCとの連携が機能し、ケース会議や生徒、保護者対応にも外部人材の協力・助言により生徒支援を継続して行えた。次年度も体制のさらなる定着を図る。(○)
4 「自分の将来を考える力」	<p>(1) 将来を見すえた進路指導</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談を丁寧に行い、一人ひとりの興味・関心を引き出し、それぞれの生活スタイルやペースに合わせた受講登録を通して将来について考える力をつける支援をする。 ・通信併修や技能審査・高認など外部単位の案内を丁寧に行う。 ・キャリアパスポートの引継ぎ、作成・管理をすすめる。 ・外部講師、地域人材などを活用し、生徒の進路意識を高める取組みをすすめる。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある」60%以上。[67.7%] ・生徒向け学校教育自己診断「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」70%以上。[56.9%] ・外部講師、地域人材などを活用した講演会や交流などの回数および内容。[5回] 	<ul style="list-style-type: none"> ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」88%であった。(◎) 進路担当による個別面談を実施した。 ・「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」91.1%であった。(◎) 進路ガイダンスを行うことができた。 ・コロナ禍であったが、オンラインでの交流等も含め、外部講師や地域人材を活用した講演会や交流会を5回以上実施できた。(○)

府立大阪わかば高等学校

5 信頼される学校	<p>(1) 広報活動の充実</p> <p>ア. 受験生・中学校・地域向け広報の充実</p> <p>イ. 在校生・保護者向け情報提供の充実</p> <p>(2) 学校における働き方改革の取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア・HPでは入試関係や連絡を掲載。ブログ、SNS r は行事や学校生活について毎日更新する。</p> <p>イ・HPでのPTA情報、在校生への連絡の充実をはかる。</p> <p>・学習支援クラウドサービスを利用した保護者への情報提供に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>・各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。</p>	<p>(1)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」80%以上。[79.2%]</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断の回収率を50%に近づける。[25%]</p> <p>(2)</p> <p>・教職員の時間外労働時間を前年度以下。</p>	<p>・保護者向け学校教育自己診断「学校は教育内容の情報を提供する努力をしている」81.5%であった。(○)</p> <p>・インターネットを活用した回答方法に変更し何度も回答を促したが、かえって回収率が低下した。回収率を高める新たな工夫を行う。(△)</p> <p>・昨年度比 98.6%に減少した。(○)</p>
--------------	--	---	--	--